

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2375900277
法人名	医療法人社団福祉会
事業所名	グループホーム高須
訪問調査日	平成 20 年 3 月 27 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 2 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2375900277
法人名	医療法人社団福祉会
事業所名	グループホーム高須
所在地	幡豆郡一色町大字赤羽字北荒子18 (電話) 0563-74-2071
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7
訪問調査日	平成20年3月27日

【情報提供票より】 (平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月15日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	0人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,750 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(135,000円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(平成20年3月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 80.7歳	最低	69歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団福祉会高須病院、山下歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道ぞいで、デイサービスと共用のきれいな建物である。道路を隔てて同法人の病院があり、毎週、そこから医師の来訪がある。ここでは、家族などの訪問時間の制限をしていないので、夜間でも気軽に訪問できる。入居者は職員と喜怒哀楽を共にし、週3回やってくる魚の直売者から食材を選んで買ったり、畑へ野菜の世話と収穫に車で出かけたりしている。また、デイサービスのレクリエーションへの参加や、近くのお寺まで散歩したり、法人内の施設も利用しながら豊かに生活をおくっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームと地域との交流については、運営推進会議で相談でき、道が開かれた。介護計画の見直しについて、状態の変化があった場合、計画変更として扱うようになった。居室や共用部分に個人の好みの物や家庭的な物なるべく置くようになった。トイレのドアにはかわいい細工物を掛け、わかりやすくなった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、まず職員各自で取り組み、その後ホームの評価としてまとめた。また、改善の方法を職員全員で検討し実現するなど、具体的改善に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では入居者の状況やホーム内外の行事、職員の勉強会の報告や、評価で明らかになった改善点などを話し合い、具体的な意見を得て改善に役立っている。市町村や社会福祉協議会とも、この会議を実施することでかかわりを持てるようになり、ボランティアを紹介してもらえたり、婦人会長の橋渡しで児童との交流が実現して、以前より人の出入りが活発になった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に意見を聞くようにしているが、なかなか出て来ないのが実情である。ホームでは家族交流会を「食事会」として、伝えやすい雰囲気の中で意見を聞こうと計画中である。相談窓口をグループホーム便りや建物内にも掲示するなど工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭り、秋祭りには参加している。今後とも自治会や老人会、その他の地域活動への参加に向けて、積極的に取り組むことが望まれる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	多種類の事業を展開する法人の中で、当グループホーム独自に地域で生活する高齢者を念頭においた理念があり、ホームと地域とのかかわりが深まるにつれ、理念も内容的に深まってきている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、一人一人の生活の瞬間瞬間を大切にしながら、理念の実現に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭り、秋祭りには参加している。	○	今後も自治会や老人会、その他の地域活動への参加に向けて、積極的に取り組むことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をまず職員各自で取り組み、その後、ホームの自己評価としてまとめた。また、改善のために取り組みたいことを職員全員で検討し実現するなど具体的改善に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況やホームの内外での行事、職員の勉強会の報告や評価で明らかになった改善点などを話し合い、具体的な意見を得てサービスの向上に役立っている。	○	現在は4か月に1回の開催であるが、これからは具体的課題を議題の中心とし、回数もできれば2か月に1回まで増えて行くことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へは出向いてグループホームの状況を報告し、運営推進会議の出席も依頼している。町役場にとってはグループホームは当所のみということもあって、十分な手ごたえを感じている。	○	認知症ケアについての地域の拠点として、認知症ボランティア養成への協力など、市町村と協働した活動が広がることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	グループホームの便りは季節ごとに年4回発行し、入居者の暮らしぶりを伝えている。金銭管理や職員の異動についても、原則として月1回以上は家族の訪問の時に報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族から希望や意見を聞くようにしているが、来訪等が少ない家族も多く、なかなか意見が出て来ない状況である。家族との食事会という伝えやすい雰囲気の中で意見を聞こうと計画している。	○	相談窓口をグループホーム便りや建物内にも掲示するなどの工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で職員の希望による異動や、やむを得ぬ離職はあるが、職員は全て常勤となっている。変わる場合は職員が何でも話し合い、連携をよくしてチームケアを維持し、入居者へのダメージを防いでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者にかかわる職員の勉強会を法人内の職員の協力を得て実施するなど、内部でも努力している。外部研修も全職員が年2回位出席し、結果を皆に報告して内容を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が県内ブロックのグループホーム会議に出席して以降、同業者のネットワークに参加し情報交換、課題提出を行い、検討が広い視野で行えるようになり、サービスの質の向上に大変役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の前に見学、一緒に食事をするなどで、ホームや職員に少し馴染んでから、家族と相談し入居を決めるようにしているが、親族の考えが不統一のため入居後数日で退居された例があり、教訓となっている。	○	入居後の入居者と職員との信頼関係は短期間で作り上げられているが、利用に至るまでの家族との関係づくりについて工夫が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでの生活は、職員と入居者が感情を共有し、喜怒哀楽を一緒に味わい、表出しながら、本人から学ぶことには素直に対応し、支えあう関係づくりを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人がどのように生活したいかなどの希望や意向を、気持ちを共有することで把握し、チーム介護の中で本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、担当職員が提案し、課題やケアの内容についてチームで十分に話し合い、本人、家族や関係者の意見をいれて作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3か月ごとに行っている。状況の変化があった場合、話し合いで対応を決めるのみであったが、計画変更として扱うよう改善されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の外からの帰りが遅くなって食事や入浴がかなりずれても、一人一人に対し本人や家族の状況に合わせ柔軟に対応している。家族の訪問時間の制限は設けていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院の医師がかかりつけ医となり、頼れる関係となっている。直接の連絡も行い、助言も得て適切な医療を受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	道路を挟んで同法人の病院があるという医療環境やホームの設備環境の中で、本人、家族、関係者共、重度化や筋力低下した場合の対応については一定の共感はある。	○	医療環境の活用や、本人や家族の希望によりターミナルに近い所まで看取りケアをした経験も踏まえ、一人一人の入居者に対して早い段階から、重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	本人のプライバシーを損ねる行動はとらないように配慮されている。居室に立ち入る場合もきちんと声をかけ、承諾を得てからである。ホーム便りを資料とする場合には氏名は削除している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせ、個別に対応している。家族へのファックス依頼や外出なども希望に合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回は魚屋の訪問販売があり、皆の気に入った魚を選んで、入居者と一緒に調理し食べている。献立や食べたい物については希望を出し合い、変更は随時行われている。職員も入居者も同じ物を一緒に味わい、片づけも意欲的に取り組めるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が毎日入浴することがあたり前として実行している。体調の変化や時間の希望に合わせて調整しつつ、入浴を楽しめるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入口のプランターの花の世話や、畑の作物の世話や収穫を楽しみ、文化活動ではホームから盆石を教えに行く入居者を支援している。習字の得意な方のもとても美しいかな書きの作品展示も素敵である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	少し遠いが畑作りも始めた。近くのお寺への散歩や買物にもよく出かけている。自動車にホームの車椅子を積んで、外出もよく行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外鍵はかけていない。1階のホーム専用入口は自動ドア、2階小ホールが実質的玄関となっており、その出入り口に小さなチャイムを付けて対応している。単独の外出者にもそっと見守りつつケアしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一度の避難訓練を実施しているが、法人内の事業である。	○	頻度を決めて、一人一人がどうすれば逃げられるか検討しつつ訓練を行い、近所の人に助けを求めれば来てもらえるための手立てや、食品の備蓄にも工夫が期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人について大まかな摂取量、水分量は把握されており、カロリー制限者には盛り付けの工夫で対応している。	○	栄養士に献立表をみてもらい、食事風景を見学してもらっているが、定期的、継続的に、一部の日だけでもきちんと計算してもらうことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階エレベーター前で階段上の小ホールは相談コーナー及び個別のコーナーとしても活用されている。居間は天井が高く広がりのある空間でありながら入居者の美しい作品などを目線に合わせて飾っている。洗濯場には入居者の個人用ゴム手袋を死角に干すなど、物の置き方にも工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分用にベッドや小チェスト、テレビを配置し、ハンガー掛けも取りやすい高さに調整して使いやすくしている。マイ急須や好みの茶葉でお茶をいれて飲んだり、好きな物や家具を持ち込んで居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。